

令和4年度 射水市健康づくり推進協議会会議録

- 1 開催日時 令和4年10月13日(木) 午後1時30分～2時45分
- 2 開催場所 射水市役所 3階 302・303会議室
- 3 出席者 委員 木田委員、石黒委員、板山委員、稲田委員、尾上委員、川田委員、櫻田委員
島多委員、酢谷委員、竹苗委員、田村委員、中田委員、星場委員、三上委員
森田委員
欠席1名(成瀬委員)

4 議題及び会議の結果

(1) 令和4年度保健事業の概要について

母子保健推進費、がん対策推進費、予防接種費、新型コロナワクチン接種等11事業について新規・拡大事業を中心に説明した。

(2) 第2次射水市健康増進プランによる取組の進捗状況について

第2次射水市健康増進プラン数値目標の現状値、取組状況について報告した。

数値目標の現状値では、基本目標である健康寿命は延伸していること、3つの基本的方向の14分野について報告した。

取組状況では、庁内関係各課の令和3年度の事業実績、令和4年度の実施状況を報告した。

(3) 重点事業(がん・糖尿病・こころの健康)及びその概要について

①がん対策推進事業について、「市政出前講座」のメニューに新講座を追加、がん対策についての普及啓発、WEB予約システムによる集団がん検診の24時間予約受付、ナッジ理論を活用した案内通知の工夫について説明した。

②こころの健康づくり事業について、若年層(子ども、妊産婦、子育て世代や働き盛り世代)へのこころの健康や相談窓口の普及啓発、SNS(LINE, Twitter)による相談窓口等の普及、民間事業所向けのゲートキーパー養成講座について説明した。

③糖尿病対策について、オンライン保健指導、糖尿病に関する知識や予防の普及啓発 市民(健康づくりボランティア)と協力し、SNS等を活用した情報発信について説明した。

5 会議内容

- (1) 開会
- (2) 会議成立報告 委員16名に対し15名の出席があり、本会議が成立している事を報告
- (3) 審議事項 事務局より資料説明後、質疑応答

【会長】

資料1の産後家事サポート事業について、対象は6か月、多胎は1歳未満など双子や三つ子も受けやすいものとなっている。今日も三つ子で3人とも風邪をひいて両親が連れて来ていたが看護師も手伝った。母は腰痛があり、育児負担がある。多胎や母の状況により手厚いサービスが必要と思う。コロナ禍で乳幼児健診、学校健診、保育園健診を実施してよいかという感じだったが、一定の感染対策ができており、集団健診でのクラスターの話は聞いていない。がん検診も抑制がかかっていたが、受診率はどうか？

【事務局】

がん検診については、保健事業のあらましの 50、51 ページをご覧ください。R3 年までのがん検診の受診数、受診率を掲載している。受診率だけを見ると、コロナ前の令和元年、コロナが始まった令和 2 年、3 年について肺がん以外について受診率は増加。令和 2 年から受診体制を胃内視鏡、子宮、乳がん検診について 2 年に 1 度に変更しており、受診率だけでは増えたとはいえない。受診数について、令和 2、3 年は増えてきている状況、令和 4 年は見込みであるが、令和 3 年より少しずつ増えているので、コロナ前に戻ってきているのかと考えている。広報でも毎月「がん検診はお済ですか？」の周知、ボランティアによる受診勧奨を班回覧にてご協力いただいている。少しずつ戻ってくるとよい。

【会長】

医師会が関わっている初期の認知機能の検査ではコロナで受診者数は減ったが、必要な人が受診しフォローする数はあまり変わらなかった。受診控えはそういうところにもあったようだ。各医療機関の外来、耳鼻科、小児科は打撃を受けた。市民病院の状況はどうか。

【委員】

受診抑制がまだあるのか、外来は今年に入り、少しずつは増えている。しかし、コロナ前に戻るのには遅いのかなど。乳がん検診に関しては、徐々には増えてきているが、コロナ以前には戻っていない。多分、肺がんも胃がんも大腸がんも同じではないか。全国的にもこのコロナの 2 年間は最悪で受診率がさがったというのは言われているので、受診率を上げるためにいろいろな施策をやっている。効果について PDCA サイクルで、時間をおいてもよいので、どれだけ増えたとかいうのをすることで受診率の更なる向上が目指せるのかなと思う。

【会長】

市民病院での市民公開講座はまだ再開しないのか。

【委員】

今年はやれないが、ケーブルテレビ等でアピールするようにしている。

【会長】

今年、射水市糖尿病 Day を市民公開講座として行うが、400 人くらい入るところに 200 人くらい、密を避けた形で、入口のところで消毒、検温、名簿の記入をし、何かあったときに連絡できるようにして実施する。糖尿病デイがうまくいき、感染が落ち着いてくるとよい。

歯科医師会は口をみるので打撃を受けるのではないかとと思われるが、どうか。

【委員】

歯科も受診抑制があり来院する患者は減少している。歯科医療は緊急性を要して痛いから、腫れたからみてほしいという患者はいるが、歯周病が再発しないように、メンテナンスを定期的に行っている人は特段症状がないので、患者から今回は見合わせたい、もう少し落ち着くまで様子をみたいと連絡があ

る。健康のことを考えると定期的に受診してチェックしていくことはすごく大切なこと。本来、そちらの方が大切だがなかなか理解いただけない。歯科医院としては防御対策、感染対策をきちんとして行っているので安全、安心な歯科医療を提供できるよう体制は整えていて、歯科医院でクラスターが発生しているところもない。糖尿病 Day は私も期待している。今後の公開講座や行事ができていくのかなと思う。

【会長】

学校の様子はどうか。

【委員】

子育て世代が不安を抱えていると感じる。こどもの不登校、登校渋り、我慢が効かない、気持ちの安定が保持できない、気力がない。大きな問題ではないが、コロナが影響しているなど感じる。関係機関と保護者の不安感に寄り添いながら子どもの健やかな成長に努めていかなければいけない。生活習慣の乱れ、早寝早起きが言われているが、1年生で11時に寝る。何でと思い、学級活動したり、養護教諭等がカードを作ったりしているがなかなか難しい。先程の資料に3歳6か月健診で就寝の指導が既に入っていることがわかった。小学校に入ってからではなく、小さい頃からということ認識した。双方の連携が大事で小学校での就寝が遅いことを伝えることも大事と思った。

【会長】

保育現場はどうか。

【委員】

保護者は仕事と子育てで一生懸命で、朝ごはんを食べさせて朝7時に連れてこられ、仕事を終えて7時に駆け込んでこられ、それから家に帰ってという方がたくさんいる。そういうお父さん、お母さんの姿を見ていると、寝る時間が遅いのかなあ、保育園に来て午前中なんとなくぼーっと過ごしているお子さんが多い。お昼寝後に元気に活動できるお子さんが特に低年齢に多い。7月に保健センターで作成した「睡眠十分」のリーフレットを配布することでお父さん、お母さんが生活リズムを大切に、子どものリズムが整っていくとよいと思う。多胎児のサポート、今まさに双子で両家の祖父母が保育園送迎をする姿をみて大変だと思うので、こういうサポート、制度が整うことはとても良い。

【会長】

6時半の日差しがセロトニン、幸せホルモンが出て、その16~20時間後にメラトニンという眠くなるホルモンが出る。今、小学生でも飲んでもよい依存性がない、もともと体の中にあるものの睡眠薬がある。薬を飲む、飲まないにかかわらず、朝6時半にカーテンを開けて日差しを浴びると、イライラが減る、集中力が増すなど睡眠はこころの健康につながる。大人も同じ。

【委員】

資料の2-1 健康寿命は延び、がんや循環器の標準化死亡比も着実に良くなってきている。ところ

が糖尿病の有所見者が74.4%、メタボ該当者が34%に増えているなど気になるところがある。糖尿病ディや保健センターでリブレを使った新しいこともいろいろされている。値は悪いがなかなか受診していない、受診しているがなかなかよくなる。こういうのを皆さんの力で何とかしていかなくてはいけないと思った。

【会長】

国保の健診については国保事業として、受診していない人をピックアップしてフォローする取組は医療機関と市が行っているが、そんなにたくさんフォローできない。

糖尿病オンライン健康相談、先着30名というのが気になったが、先着30名というのは多いのか、少ないのか？もう始まっているのか？30名すぐに一杯になるのか？

【事務局】

糖尿病オンライン健康相談は、まだ募集中、まだ枠は空いている状況。射水市の皆さんは、まだスマホやこういう機器に抵抗があるのか、初めての取組である。国民健康保険加入者という制限もある。通常であれば7万円かかる事業が今回は無料でできるので、声かけをお願いします。リブレという機器を使用（実物を回覧）して行う。

【会長】

これは若い人でないとできないということはないか？

【事務局】

こちらはスマートフォンやパソコンの使用が必要である。この事業の導入のきっかけは若い人、働き盛りの人がなかなか保健センターや会場に行けないということで、家にいながらできるということで、若い人を重点に絞った。

【委員】

がん検診が2年に1回になった検診があるがなぜか？受診券が届かないと受診が遠ざかる。

【事務局】

がん検診について、2年に1回になった検診は、胃内視鏡検査、子宮、乳がん検診である。国のがん対策会議にて、毎年の検診ではなく、2年に1回でも効果があるという結果が出ているため、受ける人も2年に1回になることで負担が減るため、市としても2年に1回とした。

【会長】

2年に1回の検診ということをしっかりアピールして受診率をあげないといけない。

【事務局】

2年に1回の検診ということで、偶数年齢が対象となっているが、昨年受けられなかった奇数年齢の

方には受けることができる体制となっている。受けていない方があれば、声かけをお願いしたい。

【委員】

2年に1回でよいとなると緊張感がなくなる。受けようかと思うと、2年に1回でよいと言われる。毎年受けなくてはという気持ちを醸成していくためには毎年必要ではないか。2年が3年、4年と受けずになってしまうのではないかと思う。

【会長】

2年に1回は必要だという歯止めの工夫をお願いしたい。

(4) 閉会